

北九州市上下水道事業中期経営計画（素案）に対する  
市民意見等の内容及び上下水道局の考え方

**1 パブリックコメント**

1-1 意見募集期間 平成28年2月15日（月）から平成28年3月11日（金）まで

1-2 意見提出状況

(1) 提出者	3人	
(2) 提出意見数	16件	
(3) 提出方法		
ア 持参	2人	
イ 郵便	0人	
ウ ファクシミリ	0人	
エ 電子メール	1人	
(4) 提出された意見の内訳		
ア 計画全般に関するご意見		1件
イ 「災害等の危機管理対策」に関するご意見		3件
ウ 「経年化施設の長寿命化・更新」に関するご意見		4件
エ 「安全・安心でおいしい水の供給」に関するご意見		0件
オ 「環境負荷の低減」に関するご意見		1件
カ 「国内外に貢献する上下水道」に関するご意見		3件
キ 「収支バランスを踏まえた経営基盤の強化」に関するご意見		2件
ク 賛意や共感に関するご意見		2件
	合計	16件
(5) 計画への反映状況		
① 計画に掲載済み		8件
② 計画の追加・修正あり		2件
③ 計画の追加・修正なし		6件
④ その他		0件
	合計	16件

**2 議会・上下水道事業検討会の主な意見**

- ・記録的な寒波を踏まえた危機管理対策について（計画に追加あり）
- ・災害拠点病院及び広域避難地への配水管の耐震化の推進について（計画に追加あり）
- ・アセットマネジメント手法を活用した効率的・計画的な更新について（計画に掲載済み）

北九州市上下水道事業中期経営計画（素案）に対する  
市民意見等の内容及び上下水道局の考え方  
《パブリックコメント》

## 【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

## 【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

## ア 計画全般に関するご意見

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
1	PDCA サイクル（PLAN-DO-CHECK-ACTION）は、計画的かつ具体的に実施しなければならない。	上下水道局の中期経営計画は、国のビジョンや市の基本計画などを踏まえたうえで策定しています。 この計画の実施に要する予算は、毎年度、議会で承認をいただいています。 さらに、毎年度、行政評価を行って公表するとともに、議会を始め、有識者などで構成する外部検討会や、市民で構成する上下水道モニターなどから、実施事業に対して専門的・客観的なご意見をいただき、翌年度の事業に反映することとしています。	2	①

イ 「災害等の危機管理対策」に関するご意見

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
2	通常、側溝の降雨強度は10年に設定されているが、近年は気候の変動が著しいため降雨強度を上げ浸水を防ぐべきである。	<p>上下水道局では、平成3年度から、国の指針に則って10年に一度の規模の降雨強度(1時間あたり53mm)に対応した雨水施設整備を進めています。</p> <p>まずは、雨水施設の整備が完了した区域が75%程度に達するまでは、現行基準のもとで整備を継続し、その後、整備対象地区の重要度や資産の集積状況、費用対効果などを総合的に勘案のうえ、降雨強度などの整備基準の改定について検討していきたいと考えています。</p> <p>それまでの期間、従来のハード整備に加え、下水道管や側溝の維持管理、ゴミや泥の除去を定期的に行うなどソフト施策も組み合わせて、浸水被害の最小化に努めてまいります。</p>	2	①
3	地球の環境が大幅に変化しているため、耐震と浸水を考慮した強固な構造物をつくらなければならない。	<p>上下水道の耐震・浸水対策については、国の基準や地域特性などを踏まえたハード整備を進めています。併せて、地震を想定した模擬事故訓練の実施や浸水の危険度・避難方法に関する住民への周知など、ソフト対策を組み合わせながら被害の最小化に努めてまいります。</p>	2	①
4	2次被害も考えて模擬事故訓練を行うべきである。	<p>事故や地震など、あらゆる場合で迅速に対応できるように、様々な状況を想定しての上下水道一体となった実施訓練や、水道部門・下水道部門の専門分野毎の実施訓練などを行っています。この訓練では、2次被害を想定し、水道管内の錆などによる水の濁りへの対応(広報活動、応急給水活動)や、大都市間情報連絡訓練を行っています。</p> <p>今後も実際の事故や災害時に近い設定で模擬事故訓練を行ってまいります。</p>	2	①

ウ 「経年化施設の長寿命化・更新」に関するご意見

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
5	長寿命化対策と維持管理コスト削減のイメージ図について、健全度とコストのバランスが合っていないと思われる。	<p>施設が経年劣化すると、健全度が低下し、大規模な補修や更新が必要となります。イメージ図は、早めに補修を行うことにより、施設の長寿命化が可能となり、トータルコストが安くなる流れを表しています。</p> <p>ご意見について、分かりにくい表現があったことから、健全度のイメージ図について、「予防対策を実施しなかった場合の改築更新の時期」と「予防対策を実施した場合の改築更新の時期」を追記します。</p>	3	②
6	最近、空き家が増えており、それに伴い漏水も増えているため対策をお願いします。	<p>空き家になった場合でも、次の入居者が掃除やトイレなどで水が必要となる場合を考慮して、1年間に限っては、直ちに水道が使用出来る状態にしています。</p> <p>これは、お客さまの利便性を確保するための措置であり、空き家の状態が1年間継続したときは、入居予定がないものと判断し、維持管理の観点から水道メーターを撤去し、水道が使用出来ない状態にしています。</p>	2	③
7	<p>今回の寒波による自然災害において、空き家の漏水により、市民生活と都市機能に重大な事態を引き起こした。</p> <p>今後も同様な事態が想定されるため、市関係局と連携して、空き家の実態を把握するなど、対応をお願いします。</p>	<p>空き家の漏水については、メーターを設置しているときは、通常どおり検針することで、水量を把握し早期発見に努めているところです。</p> <p>今後も引き続き、漏水防止対策として空き家を含めた漏水の早期発見に努めてまいります。</p> <p>また、今回の記録的な寒波を踏まえ、本市の空き家対策担当部署などと情報共有を行うなど、寒波対策の充実を図ってまいります。</p>	2	③

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
8	<p>有収率は、重要な財政指標の一つであり、平成 32 年度で 92%の設定は低すぎるのではないかとと思われる。</p>	<p>有収率は、有収水量（収入の対象となった水量）を配水量（お客さまに配水した水量）で除した値（百分率）です。</p> <p>収入の対象にならない水量の中にも、上下水道局が事業用として使用する水量（工事の洗管用水など）や消火用水量など有効に使用されている水量（約 3%）があります。なお、政令市の平均有収率（H26）は約 92%です。</p> <p>本市は起伏に富んだ地形で一人当たりの配水管延長が長いと漏水する確率が高く、平均水圧が高いため漏水が発生した場合には漏水量が多くなる要因もあります。</p> <p>これまで、漏水の早期発見による漏水防止対策に取組み、有収率 90%（H26）を達成しました。今後は、人口減少や節水機器の普及により毎年有収水量の減少が見込まれることから、これまでのような上昇は期待できないと考えています。</p> <p>このため、平成 28 年度から軌道敷、国道などにおいて効率的に調査頻度を増やすため、新たに監視型漏水調査を導入し、さらなる漏水防止対策を実施してまいります。</p>	2	③

#### オ 「環境負荷の低減」に関するご意見

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
9	<p>環境アセスメント（Environmental Impact Assessment）も考慮すべきである。</p> <p>水を利用するためにダムをつくったり、生活に必要な電気を得るために発電所をつくったりするなど、いずれも人が豊かな暮らしを得るための開発である。必要な開発であっても、環境に重大な影響を与えてはいけない。</p> <p>環境の保全についてもあらかじめよく考えていくことが重要となる。</p>	<p>本市は「世界の環境首都」を目指したまちづくりを進めており、上下水道局としても、自然エネルギーの活用や汚泥の有効利用、エネルギー効率の高い機器の導入などにより、温室効果ガスの発生量の削減に努めています。また、合流式下水道の改善による川や海への汚濁負荷量の削減など、今後も継続して環境負荷の低減を図ってまいります。</p>	2	①

カ 「国内外に貢献する上下水道」に関するご意見

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
10	<p>上下水道インフラは、問題が生じると市民の生命と生活及び都市機能に重大な支障をきたすので、今後の老朽施設の更新事業費について、市民へ理解と協力をお願いをPRすべきである。</p>	<p>今後も、広報紙やホームページ、イベント、上下水道モニターなどで、事業についての理解と協力をお願いを積極的にPRしてまいります。</p>	2	①
11	<p>上下水道事業の基盤である料金収入は、少子高齢化及び節水機器の普及などで今後も減少し、人口動態などにより厳しい財政運営が続くものと思われる。</p> <p>これまでも周辺市町と協働して広域化を推進してきたことは承知をしているが、これからは難しい面があると思われるが、工業用水、下水道も含めた広域化の推進などにも取組み、官民協働による広域推進事業の先進都市として他都市を牽引してほしいと思う。</p>	<p>上下水道局は、長年の事業運営で培った技術やノウハウなどを活用し、広域連携を進めてきました。</p> <p>平成 23 年度からは、福岡都市圏と本市を結ぶ緊急連絡管を活用し、宗像市、新宮町に一日当たり最大 1 万 3 千 m<sup>3</sup> の水道用水を供給する事業を開始し、平成 28 年度からは、最大 2 万 m<sup>3</sup> を供給いたします。また、平成 28 年度からは、宗像地区事務組合の水道事業について、包括業務委託の受託を開始します。</p> <p>ところで、県北東部の本市を含む 17 市町の圏域では、少子高齢化などに伴い、今後、継続的に人口減少が予想されており、広域による行政展開のメリットを最大限引き出しながら、県域全体の活性化と魅力ある圏域の形成を図っていく必要があります。</p> <p>そこで、本市では、国が推進する連携中枢都市圏構想のもと、本圏域の中核都市として、連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を形成していくこととしています。</p> <p>圏域での取組みの一つに、「上下水道の広域連携に向けた検討を行う。」としており、「上下水道事業中期経営計画(素案)」にも掲げているとおり、本市と近隣自治体の双方にメリットのある方法による広域連携に向けて取組んでまいります。</p>	2	③
12	<p>水道利用者である市民(お客さま)に上下水道事業を理解してもらうことも大切なことと思う。主要浄水場の整備にあわせて、清浄な水生産工場としてのイメージアップ及び水道の歴史的資産の整理、展示、学習の場の提供にも取組む必要があると思う。</p>	<p>上下水道事業への関心や信頼を高めるため、例えば、環境学習の一環として、市内の浄水場や浄化センター、日明浄化センター管理棟(ビジターセンター)などの重要な施設については、小学校の社会見学授業の受入や市民への一般開放などを行っております。今後もイメージアップ及び学習支援に取り組んで、積極的に上下水道事業のPRをしてまいります。</p>	2	①

キ 「収支バランスを踏まえた経営基盤の強化」に関するご意見

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
13	「現行料金を維持」と「料金収入の減少」では矛盾している。	<p>人口の減少や節水機器の普及などによる水需要の減少に伴い、料金収入の減少が予測され、今後も厳しい経営環境が見込まれます。</p> <p>しかしながら、事業の経営にあたっては、より一層、効率的な事業運営や、経費節減、増収対策に取り組む、安全・安心で質の高いサービスを提供しつつ、現行料金の維持に努めてまいります。</p>	3	①
14	資産活用について、未利用地の有効活用及び売却、貸出広告など、今でも検討していると思うが、さらなる検討をお願いします。	<p>これまで、資産の有効活用として、駐車場用地としての貸付や太陽光発電設備設置のための貸付などを行ってきたところです。</p> <p>今後も、新規駐車場の開設や既存駐車場の拡大など、未利用地の特性に応じた活用策を検討してまいります。</p> <p>ご意見のとおり、本編 83P「6-2-01 上下水道の資産・資源の有効活用」に今までの取組みと今後の具体例として、「今までも水道用地については、駐車場や太陽光発電設備設置のための貸付などを行ってきたところです。今後も引き続き、新規駐車場の開設や既存駐車場の拡大などによる活用を図りながら、併せて」を追記します。</p>	2	②

ク 賛意や共感に関するご意見

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
15	<p>「水」は命であり、下水道がなければ不衛生な生活が生じ、生命と生活維持に重大な支障をきたすので、上下水道事業の関係者に感謝する。</p>	<p>本市の上下水道事業は約 100 年の歴史を持ち、永年に亘り、市内の多数の事業者と市が連携して、それぞれの役割を担い、安全で安定的な給水や下水処理を行ってきました。</p> <p>現在、本市の上下水道事業が国内外で高く評価されている背景には、事業者との連携があると考えています。また、1月の記録的な寒波においても、事業者との連携により、最低限の断水で対応できたと考えています。</p>	1	③
16	<p>施設整備については、安心安全をキーワードに着実に整備されてきている。日常生活において何ら不自由なく使用できており感謝する。</p> <p>先の大寒波においても、他都市のように大規模な断水もなかった。</p>	<p>今後とも、この連携を活かして市内の事業者とともに、安全・安心で質の高いサービスを提供し、県内で一番安価な上下水道料金を維持していくように努めてまいります。</p>	1	③



北九州市上下水道事業中期経営計画（素案）に対する  
市民意見等の内容及び上下水道局の考え方  
《議会・上下水道事業検討会の主な意見》

## 【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 その他の意見

## 【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済み
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	意見に対する上下水道局の考え方	内容	反映
1	先日の寒波による水道管の凍結・破裂を教訓に「災害等の危機管理対策」に寒波対策を盛り込むべきである。	これまで、ホームページや広報車などで水道管の凍結について、注意喚起をしてきました。 今回の記録的な寒波を踏まえ、今後は、緊急時連絡先ステッカーの全戸配布などの新たな広報活動、高台地区での宅地内水道管（点検・診断・助言）や空き家などの漏水防止対策を中期経営計画に盛り込み、寒波対策の充実を図ってまいります。	2	②
2	「病院や広域避難地などへの配水管の耐震化」について、取組内容を示す必要がある。	水道管については、従来から更新計画に基づき、更新に併せて耐震化を進めてきました。今後はアセットマネジメント手法を活用した新たな更新計画に基づき、更新投資の平準化を図りながら計画的に事業を推進します。 特に、漏水などでお客さまに直接影響を及ぼす配水管については、引き続き重点的に取組んでまいります。 さらに、中期経営計画では、災害拠点病院（7箇所）及び北九州市地域防災計画に位置づけられている広域避難地（24箇所）のうち初期給水拠点（17箇所）への配水管の耐震化を進めてまいります。	2	②
3	経年劣化による施設更新が必要な時期になっているが、人口減少が確実な中で、従来どおりの配水施設をそのまま更新することは無理がある。	アセットマネジメント手法を活用して、施設更新に関しては、可能な限り長寿命化を図ってまいります。更新に際しては、将来水需要を考慮しながら、管路の縮口径や施設規模の最適化を図りつつ、重要度・優先度を踏まえた効率的・計画的な整備を行ってまいります。	2	①